

LPG発電機 本格販売

フロパン新聞

産業報道出版株式会社

本社 東京都中央区築地3-7-4
電話03(3541)4181 代表
関西支社 大阪市西区北堀江1-6-5
電話06(6531)3621 代表
東海支局 名古屋千種区内山3-10-17
電話052(735)0484
中国支局 広島市中区上八丁堀8-23
電話082(223)5399
九州支局 福岡市博多区博多駅前2-16-4
電話092(471)7493

ホームページアドレス
<http://www.lpg-sanpo.co.jp>

信用と技術をもって
液化石油ガ
低圧

震災後、問い合わせ急増

昭栄

全国各地域で販売代理店を募集

昭栄(埼玉県行田市、川崎道賢社長)は、LPGガス燃料の発電機と節電機能付き電力供給システムを開発、販売を本格化した。震災後問い合わせが急増し、初年度で100件の設置を見通す。全国各地域で販売代理店を募集しており、LPGガス販売事業者からの引き合いも増えている。

システムはLPGガス燃料の発電機(8kW)、電力監視コントロールユニット、UPS(無停電電源装置)で構成。発電機は3年前から単体で販売しているが、同時にシステム・災害時には独立電

力を供給する。停電時はUPSが起動し、復旧すると自動停止。復旧までが長くUPSのバッテリー(10アンペアで3時間40分)がなくなると、発電機が自動稼働する。

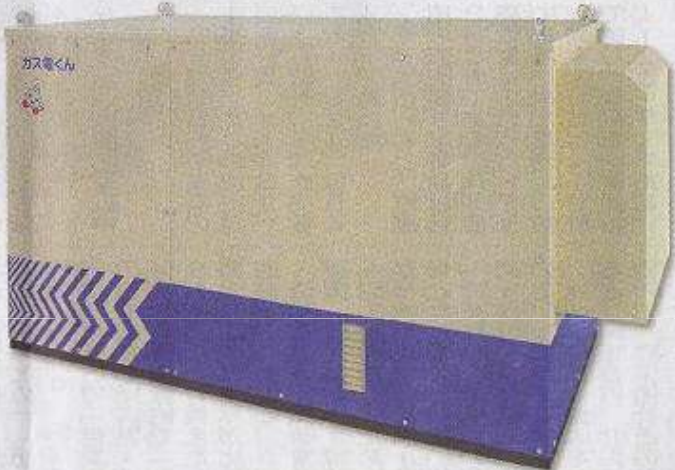
LPGガス発電で、通常のガソリン、ディーゼルよりも燃料の安定供給、維持管理や低騒音(稼働時60dB以下)、CO2削減など利点がある。50kgのLPGガス容器1本で約24時間稼働する。平時もコンセントの抜き差しをする必要がなく簡単な操作で待機電力をカット。コントロールユニットにユーザー各社独自の電力管理パターンを記憶させることができる。

「ガス電くんシステム」として代理店を通して販売を始めた。価格は発電機単体・工事費込みで200万円前後から。代理店(南関東)のアー

バンシップ(東京、中澤竜馬社長)では、「ホームページを通して、個人から事業者、老人ホームなどの施設と各方面から反響がある。当初の節電への関心から、震災後は非常用電力供給として問い合わせが増えている」(中澤社長)という。

昭栄は人材派遣や環境リサイクル事業を行うが、取引先である富士重工業でお蔵入りしようとしていたガス発電機部門に目をつけ、市場を生み出し事業として継続している。「震災時はガソリン調達が困難で、LPGガス発電への関心が高まったのではないかと。8月に入り再び猛暑で電力不足が懸念されており、ユーザーのニーズに対応していきたい」(松村毅執行役員)。

現在まで約20件設置し、計画を上回る商談件数が動いている。首都圏が中心だが、同社では全国各地域で販売契約する代理店の募集も行っている。LPGガス事業者のほか、電材・電設工事、建築など各業種から関心を



発電機は50kg容器で約24時間稼働